

# 子どもの 進路決定に 私はこう 関わった!

センパイ  
保護者が  
激白!!

子どもが納得して自分の進路を選ぶために、保護者はどうサポートすればいいのでしょうか？  
今回は、実際に進路選択を乗り越えた4人のセンパイ保護者に、体験談をお聞きました。  
子どもの性格や状況によって心配や悩みもさまざま。きっと、参考になることがたくさんあることと思います。  
同時に子どもの本音も収録。こちらもお見逃しなく!

取材・文／菅家真理枝 イラスト／川崎タカオ



※記事の内容は取材をもとにしておりますが、プライバシー保護などの目的のため、一部事実と異なる記述があります。

# 部活をやめゴロゴロする息子にイライラするも やりたいことを見つけてられるように誘導

〔私立大学理系学部指定校推薦で現役合格した息子を持つKさんの場合〕

**化** 学は好きだったようですが、それ以外はまるで苦手だった息子。高校受験も失敗し、滑り止め校に進学しました。

でも、入学後はサッカー部に入り、頑張っていました。前期の成績は今までになくいい成績。すごく嬉しかったですね。

ところが、後期には先輩とのいざこざで部活をやめてしまい、私が仕事から帰ると、毎日家でゴロゴロしているんです。もう、私の方が変になりそうでした。「勉強するなり、部活に入るなりして、こんな生活はやめて！」とガンガン言ったのですが、案の定、成績も下降線に。

このままではマズイと思い、高2の頃、「どんな大学がいいか一緒に見に行こう」と言って、大学フェアに引っ張って連れていってあげました。その時は、息子は建築と教師の資格に興味を持ったようでした。

高3の前期には、化学の成績が突出。本人はそれで化学好きを再認識したようです。夏休みは建築科と化学科のある大学のオープンキャンパスに行くことに。学費の確認と家から通えるかどうかというチェックのために、私もできるだけ同行しまし

た。オープンキャンパスで化学の実験に夢中になっている息子を見て、化学科に行きたい気持ちが強くなったことがよくわかりました。

一般入試での受験は厳しかったので、化学科の指定校推薦を探したのですが、家から通えるところに息子の成績で入れる大学がなくて、私としては頭を抱えていました。すると突然、父親が、「お前、そんなにやりたいのなら家から出てもいいぞ」と。うびつくりです。お金はどうするのと、心の中でツツコミを入れました。当の息子は大喜びし、結局他県にある大学に指定校推薦をもらい合格。下宿代は奨学金で何とかする！と前向きに解決しました。



勉強をもう少し頑張っておけば、評定平均があがって、家から通える大学の推薦も受けられたのにも思いましたね。オープンキャンパスなどには一緒に行きましたが、肝心なことは本人に決めさせて、あなたがやりたいのなら全面的にサポートするよと意思表示をしました。自分で選んだ道なら頑張れると思いますから。

## 子どもはこう思っていた!

### 自分で決めたことはとことんやれと応援してくれた

学校から帰ったらまず集中して勉強をして、母が帰ってくる頃には、好きなテレビを楽しんでいたんです。だからやってないように見えたかも。当時は、ガミガミ言われて、うるさいなと思っていました。母は自分が決めたことはやるならとことんやれといつも言っていました。進路に関して建築

から化学に変えようかと迷った時も、いいんじゃないのと背中を押してくれたのは心強かったです。母が「学力も大事だが人格も大事である。人前ではどんと構えなさい」という人生観を語ってくれたことも心に残っています。面接を受けた時に、母の言ったとおりだなと実感しました。



## 突然の美大志望にとかくびっくり！

## 心配が先に立って純粋に応援できず反省

「私立美大に一般受験で二浪の末合格した娘を持つNさんの場合」

中

学受験ではものすごく頑張つて希望の学校に入った娘。ところが、その後、勉強しなくなり成績は落ちる一方。でも、部活を3つも掛け持ちして頑張っている姿にはすごく感心していました。

私たち両親は理系。女性が長く仕事をする上で専門性や技術があったほうがいいと思つていたので、そういう意味でも理系に進むといいなと思つていました。

ところが、2年の後半くらいに、突然、美大に行きたいと言い出したので、びっくりです！言い出したら聞かないだろうと思つて、「だめではないけど、中途半端な気持ちでは美大受験は難しいよ。ちゃんと将来のことも考えてね」ということを伝えました。夫は、「就職が難しいぞ。美大以外の大学も受けておきなさい」と条件を出し、私もそれに賛同。娘はというと「そんなに器用じゃない」と。

そして、美大受験用の塾に通い始めました。英語の試験もあるので英語の塾にも行くことをすすめたのですが、娘は行く気なし。それで本気なの？と思いました。親だつて本当は100%応援したい。応援す

る気持ちになるような頑張りを見せてほしいと思ひ、もどかしかったです。

結局、現役受験は全滅。それまでは夫は「浪人はさせない」と言つていましたが、見るからに気落ちした娘を見ると、かわいそうで、私も夫も浪人してもなんとか美大の道へ行ってほしいと応援する気持ちが強くなつていました。

2年目は、ガミガミ言わないように気を遣いましたし、あえて甘い母親になり、受験前日は一緒に宿に泊まり、リラクセスさせてあげました。合格した日には、お祝いにみんなでご飯を食べに行きました。娘が「入学金を払ってください」と凛として言う姿がとても誇りしかったです。

★

難関美大に挑戦するだけでも不安なのに、親からも厳しいことを言い過ぎたと反省しています。娘は自分から発信するタイプではないのですが、娘との日常会話でも、表面的にしか聞いてなくて、肝心なことを聞いてなかったのかもしれない。娘なりに考えていることを、もっと信じてあげればよかったと思います。

## 子どもはこう思っていた！

## 驚くのは想定内。頑張りを認めて応援してほしかった

美大という道は現実的ではないと思つていましたが、友人が美大を選んでいるのを見て、そうか実際に選んでもいいんだと思ひ選びました。母は本気で自分で決めた道ならいいよと言ってくれたので、美大を受ける方向に。でも、美大以外も受けるようにと言われたことはプレッシャーでし

た。実技の評価が伸びず、すごく不安で英語までとても手が回らなかつたし、友人の家族は応援してくれるのに、うちの親はなぜ美大頑張れと応援してくれないのかと思つていました。美大受験準備はお金がかかりますが、何も言わず際限なくお金を出してくれたことには、本当に感謝しています。



# 受験よりもロックバンドに夢中の息子 やればできると息子を信じて料理で応援

〔私立大学文系学部に入試で現役合格した息子を持つSさんの場合〕

**音** 楽が大好きで、部活のロックバンド

に夢中になっていた息子。私も息子のライブには必ず参加して、一緒に音楽の話で盛り上がりつつ楽しんでいました。

高2の終わりに進路を考えた時に、息子は、受験勉強したくない、音楽関係に進みたいから大学に行く必要はないと言っています。これは困ったと思いました。私はなんとしても大学に行ってほしかったし、音楽の道で成功することがいかに大変か知っていましたから。

なんとか大学進学に気持ちを向けたらと思い、軽音部に入って楽しそうな大学生活を送っている学生のHPを見せたり、TVを観ながら、「ちゃんとした学歴があれば、こんな素敵な生活ができるのねえ」など、冗談交じりに話したりしました。息子は「マスコミはいいことだけを言うてるんだよ」という感じで受け流していましたが、そのうち大学受験を決めたようで、心底ほっとしました。

急いで塾にも行かなくてとはと、「一緒に塾に相談に行きましたが、息子は「引退ライブがあるから、すぐには通えない」と言う

ではありませんか。塾の担当者の顔がひきつたのがわかり、焦りました。

結局、塾に通い始めたのは、高3の5月。出遅れた感はありませんでしたが、それは本人が頑張ることと割り切り、私は食事と健康面でのサポートに徹することに。しっかりと栄養をとってほしいと思い、毎日100%手作りの料理を食卓に並べました。勉強も学部選択も全て本人に任せようにして、あれこれ口出しはしないようにしました。でも、ちゃんと勉強しているのか？間に合うのか？と内心は合格するまでずっと落ち着きませんでしたね。

今では大学生となり、オールAをとるほど勉強も頑張っている息子。ボイストレーニングにも通っています。好きな音楽からは離れられないみたいです。



小さかった頃、息子は素直でとてもかわいくて、私は息子との時間を優先して仕事をセーブし、子育てを大いに楽しんできました。そついう積み重ねがあったから、受験期も息子を信じて見守ることができたのかもかもしれません。

## 子どもはこう思っていた！

### 受験でもいつもと態度が変わらなかった母に感謝！

大学には行くものだと思っていました。音楽の道に行きたいと言ったのは、まだ進路をはっきり決めたくないという思いがあったから。でも、親は知らなかったと思いますが、高2の時に音楽の専門学校に体験に行き、自分は違うと思ったので、その迷いはなくなりました。母の性格はとてもポジ

ティブで、話していても気持ちがいいんです。受験の時も全く変わらず、いつもの母でいてくれたのが大きかったと思います。受験勉強中は心が折れそうになったこともありましたが、どんな時でも、家に帰ると母がいつもおいしい料理を作って待っていてくれたのは本当に感謝しています。



# 薬学部を目指すといいつつ勉強しない娘 進路希望が二転三転しハラハラ

〔私立大学薬学部に公募推薦で現役合格した娘を持つTさんの場合〕

**小** さい頃から、薬剤師になりたいと言っていた娘。高校は、一応、薬学部の指定校推薦があるところを選びました。

せっかく指定校の枠があるのだから、「できるだけ成績は頑張っておくといいな」とハツパをかけたが、本人は「わかってる」と言うばかりで、全く勉強する気配なし。

1年の冬に、文理選択があったので、娘の気持ちも再確認したんです。本当に薬剤師になりたいの？と。理系の中では薬剤師しか興味がないと言っていたので、万が一進路を変えなくなった時に、選択の余地がなさすぎると思ったからです。結果、娘は理系を選択したので、薬学部という進路が少しはつきりしてきました。

その後も、相変わらずテスト前以外は全く勉強しなかったのですが、高3で評定の歯がゆかったのですが、高3で評定が出ると、ギリギリ薬学部の指定校推薦がねらえる位置にいることが判明。娘も指定校推薦を受ける方向で、少し勉強をする動きも出てきました。

しかし、高3秋の指定校推薦の校内選考で、評定ギリギリだった娘は行きたく

た大学の推薦枠から外れてしまったんです。娘はもう大ショックです。

どうなることかと思っていたら、今度は、突然看護師になると言い出してびっくり。学校で看護学部の指定校推薦ならあると聞き、焦った娘はどこでもいいから決めたい気持ちになっていました。これはマズイと思いました。その時、高2の頃に娘が看護師体験をした時のことを思い出したんです。そこで、「看護師体験した時に、私には向いていないとあなたは言っていたよ」と話すと、娘もその時の気持ちを思い出したようでした。

そんな中、まだ間に合う公募推薦があることがわかり、娘は短期間で猛勉強をして、指定校推薦で希望していた薬学部に見事合格。結果オンラインで幕を閉じました。

私は受験については、基本的には学校と本人に任せていました。あまり深く首を突っ込んで、自ら調べたりしてしまうと、その分うるさく言ってしまうのがわかっているから。でも、少し放任しすぎたかなと反省しています。

## 子どもはこう思っていた！

### 焦っていた自分に客観的にアドバイスをしてくれた

母は、あなたのいいようにしなさいといいながらも完全に放置するわけではなく、見るところはちゃんと見てくれていました。指定校推薦に外れた時はものすごく落ち込み、看護師の推薦にすがりつきましたが、母の言葉で自分が逃げていたことに気づきました。以前私が映画やマスコミ方

面に興味があると言った時も、頭から反対せず、客観的なアドバイスをしてくれました。高校の時は、薬学部は6年間も勉強しなくてはならないから嫌だなと思っていましたが、自分の実力で勝ち取った薬学部ですから、今はなんとしても薬剤師になってやるという気持ちです。

